

1. 所信表明より

- ① 市長が描く「津市の将来ビジョン」の実現に向けた2期目の思いは について前業市長に伺います。

私は、昨年の12月に再選を目指す市長に4年間の総括と津市の将来ビジョンについて質問をしました。

その時市長は、「市民の望みや期待に応えるべく、明確な目標を掲げ、次の4年間、果敢に挑戦していきたい」との決意を力強く語られ、さらに、市長が描く将来ビジョンとしての「風格ある県都津市」を創造していくと、お答えいただきました。

市民が広く周知のように、津市には、津市の将来ビジョンを描いた「総合計画」や「都市マスタープラン」が策定され、これらを基軸に年度ごとの市政が計画実施されています。

市長の2期目の市政運営に臨む姿勢は、今議会での「所信表明」で細部にわたって述べられていますが、これらの実現で、津市の将来にわたるビジョンの具現化ができるのでしょうか。

言いかえるならば、2期目の市政運営と歩調を合わせながら、1期目の期間内の「総合計画」や「都市マスタープラン」の各内容を精査した、成果の部分と反省の部分进行分析し、さらに、精度を上げながら「津市の将来ビジョン」をローリングし、変容させ、実現に

向けて展開していく必要があると思慮いたします。

前業市長のお考えを伺います。

2. 教育施設の整備について 質問します。

教育施設の整備につきましては、合併後、耐震工事や統廃合による合理化、人口移動、生活様式の多様化による普通教室、特別教室の増築や運動施設の改修にと、未来を担う子供たちの学びの環境の充実は喫緊の課題と思います。今回の議案にも示されているように学校の大規模改修、プレハブ教室の解消、さらには小中一貫教育のための整備、等 それぞれの特性に対応した施設改修が進められようとしています。(私の地元の学校も老朽化した教室を建て替えていただくための予算化に対し、感謝いたします)

さて、教育施設の整備については、子どもたちが等しく教育を受けることを前提に、平等、公平、適正を鑑み、地域の特性であり、人口の増減、面積、密度、立地条件、等々、あらゆるデータをもとに整備計画を立てられ、予算化し、将来の津市の教育がどうあるべきかを考える指標だと思えます。

そこで、1点目の質問として、教育環境整備の基本計画はどのように策定しているのか、伺います。

また、陸上競技やテニス、サッカー、剣道、柔道等、クラブ活

動ができる学校、できない学校がありますし、図書室などの特別教室の整備はバラつきが見られます。

2点目の質問として、このようなバラつきの状態で学力・体力の向上は図れるのか伺います。

3点目として、小中一貫教育の実践事例として、今回の議案に、施設一体型と隣接型の異なる進め方が同時に提案されています。この整備内容の違う進め方が、津市の進める小中一貫教育の良い事例となるのか、質問します。

4点目として、教育の根幹をなす子どもたちへの平等・公平な教育の機会が提供されているのか伺います。

3. 幼児期の教育・保育の提供体制について

1人ひとりの子どもは家族のみならず、地域の宝であり、その健やかな育ちは誰もが抱く共通の願いです。

近年の少子化・核家族化の進行、近隣とのつながりの希薄化等による子育ての孤立化、依然として厳しい経済情勢や就労環境、共働き世帯の増加やライフスタイル多様化、若者の結婚や家族に対する価値観の変化等を背景に、家庭や地域における「子育て力」の低下がみられるとともに、児童虐待や子どもを巻き込む犯罪が社会問題

となっていることから、子どもの育ちと子育てを行政や地域社会をはじめ、社会全体で支援する必要性が高まっています。

そこで津市においても、「子ども・子育て支援事業計画」が策定され、多様な子育て支援に取り組んでいこうとしています。「人が家庭を、家庭が地域を、地域がまちを築いていく」という観点から、1点目の質問として、保育の充足量と区域の設定はどう考えているのか、2点目の質問として、通園時間と利用者ニーズについて、この2点について地域の特性や実情に配慮されているのか、伺います。

4. 乳児院、児童養護施設について 質問します。

子ども・子育てをめぐる社会環境が大きく変化する中で、すべての子どもに良質な成育環境を保障し、子どもを大切に育む社会の実現が求められています。

社会的養護の施策は、かつては、親が無い、親に育てられない子どもへの施策であったが、虐待を受けて心に傷を持つ子ども、何らかの障害のある子どもなどへの支援を行う施策へと役割が変化し、その役割、機能の変化に、ハード、ソフトの変革が遅れています。

これらをふまえ、三重県の実情に即して、計画的に家庭的養護の取り組みを推進するため「三重県家庭的養護推進計画」を策定し、

家庭養護の支援や施設の小規模化・地域分散化等を進めるための具体的な方策が定められました。

そこで、質問として、家庭的養護推進に関する基本的な考えの中で、本体施設、グループホーム、里親・ファミリーホームにおける要保護児童の割合をおおむね3分の1ずつに変えていくことを目標に設定していることに課題はないか。また、職員の配置基準は適正か、伺います。

5. スポーツ選手の強化育成は について質問します

メッセ・ウィング辺りに、槌音が聞こえ、いよいよ新体育館の建設が始まったと感じるところであります。

さて、最近のスポーツ紙をにぎわす津市出身のアスリート、

たかぎはやと高木勇人選手（プロ野球）、いわでれいあ岩出玲亜選手（マラソン）、にしおかよしひと西岡良仁選手（プロテニスプレイヤー）、かなざきむう金崎夢生選手（サッカー）、やまぐちなおこ山口直子選手（プロボクサー）
また、これからの活躍を期待する選手として、サッカー、ガンバ大阪のせのおなおや妹尾直哉選手、柔道選手でふじさきのんの藤崎暖乃選手、まだまだたくさんのアスリートが見えますが、これらの選手に続く選手の育成はどのように考えているのか、伺います。

2点目の質問であります。文部科学省設置法改正案が5月13日に成立し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催準備や競技振興など、スポーツ振興施策を総合的に推進する「スポーツ庁」が今年10月より文部科学省の外局として、新たに誕生しますが津市のスポーツ振興にどのように影響してくるのか、伺います。

6. 公益社団法人津市シルバー人材センターの業務について 質問
します。

この問題につきましては、私は、平成15年の12月議会で質問しましたが、その当時から考えますと、社会、経済情勢がずいぶん変わってきましたし、シルバー人材センターそのものも当時は2億5千万円の事業でありましたが、昨年の事業実績は約6億円だと聞いています。年々増える高齢者に働きやすい環境を整備することは、喫緊の課題だと思います。最近、厚労省は労働時間の上限緩和の検討を始めたと聞いていますが、その辺のところ、雇用関係があるかどうか、支払うお金は賃金か、また、労災保険の適用は受けるかどうか、など、高齢者雇用の問題に大きく関わってくることから、質問します。